

## スズキの財団活動等

### 01 財団法人スズキ財団

スズキは、1980年より財団法人スズキ財団を通じて、研究者の科学技術研究に対する助成活動を行っています。

#### 理念

小型自動車産業は、快適な市民生活を創り、また、日本の科学技術の発展に寄与してきました。そして、それは機械工業技術を支えている沢山の研究者・技術者のたゆまぬ努力と優秀さによってもたらされました。資源の少ない日本ではこうした研究者・技術者は日本の財産であり、国力であると確信しています。

また、自動車産業は、地球環境保全のために有限な天然資源エネルギーや環境との調和に対する課題をクリアーし、市民社会の求める期待に応えていかなければなりません。

スズキは、こうした課題に勇気をもって挑戦することを誓い、1980年にスズキ創立60周年の記念事業として、関連企業とともに基金を寄託した公益法人（現法人名：財団法人スズキ財団）を設立し、以後、スズキ財団を通して研究者や技術者の研究や開発を奨励しています。課題を少しでも解決して豊かな社会を築いていきたい。そして、21世紀の主役となる研究者・技術者の創意・工夫を伸ばしていきたい。スズキは、スズキ財団の活動からも良き企業市民としての社会的責任を果たします。

### 財団の活動

#### ① 基礎的・独創的研究に対する助成

環境・資源エネルギー技術や安全・福祉技術、材料・科学技術に関する基礎的・独創的研究に対し、社会発展の基礎を築く研究に助成を行います。これまでに全国の大学・高専・研究機関の研究者692人に、9億7,239万円（2008年4月1日現在）の研究助成を行い、科学技術の基礎研究発展に貢献しています。



贈呈式 津田理事(左) 渡辺義見名古屋工業大学教授(右)

#### ② 課題提案型研究に対する助成

地球環境の保全やエネルギー資源節約等、早急に取り組まなければならない課題に対し、研究者が知恵を結集し解決を目指す研究テーマに助成を行います。

平成15年度より助成を開始し、これまでに「軽・小型車用排気ガス浄化システムの開発」等の7件の研究に対し、5,308万円（2008年4月1日現在）の助成を行っています。

#### ③ 研究成果普及助成及び研究者海外研修助成

科学技術分野の基礎的・独創的研究成果を発表し研究の更なる充実・発展を図るため、国内外で行われるシンポジウム・会議等の開催、或は海外で開催されるシンポジウム・会議への出席等の経費の一部を助成しています。

これまでに246件、1億28万円（2008年4月1日現在）の助成を行っています。

#### ④海外からの研究留学生に対する助成

一国だけの問題解決を目指すのではなく、地球環境保全の様な、多くの国と一緒に解決しなければならない課題も沢山あります。日本の研究やその成果を多くの国の研究者・技術者にも伝えなければなりませんし、逆に学ばなければなりません。そうした目的で研究留学を行う研究者に研究助成を行っています。

これまでに、ブダペスト工科大学から6人の研究者が研究留学を行いました。その中には国際共同研究開発として進められているものもあります。



2007年度 研究留学生 Norbert Stuban氏と静岡大学工学部 篠原教授と庭山准教授の研究室の学生・院生

#### ⑤インターアカデミアへの支援

ヨーロッパの6大学と静岡大学が自然科学分野での研究交流を行い、研究成果をお互いの国で活用することを目的とした国際会議(インターアカデミア)を行っています。スズキ財団はそうした活動にも積極的な支援をしています。

#### ⑥助成件数と助成金額

・2007年助成件数：66件

2008年4月1日までの累計：951件

・2007年助成金額：7,000万円

2008年4月1日までの累計：11億3,951万円

#### ⑦公益信託進化学振興木村資生(もとお)基金への支援

病気の原因を解明し健康保持に務めて、楽しく豊かな生活をおくることは、人々の願いでもあります。遺伝学の研究部門でノーベル賞候補にまでなった、故木村資生博士の研究業績をたたえて、2004年12月、スズキの基金助成によって「公益信託進化学振興木村資生基金」が設立されました。この基金では、遺伝学分野の研究を行い、大きな研究功績を残された方の顕彰を行っています。

## 02 財団法人スズキ教育文化財団

スズキ教育文化財団は、2000年にスズキの創立80周年の記念事業として、スズキグループ企業が基金の全額を寄託して設立した公益法人です。

本財団は、静岡県内の高校生又は静岡県内の高等学校を卒業した大学生で、経済的な理由で学業に専念できない方に奨学援助を行い、併せて児童・生徒のスポーツ及び学習活動に対する支援を行い、もって青少年の健全育成に寄与することを目的としています。

- ・総資産：15億6,135万円
- ・奨学援助総額(2008年4月1日までの累計)：6,720万円
- ・奨学金給付(2007年度)：58件(1,806万円)



鈴木理事長から奨学生認定証を授与される、ムンド・デ・アレグリア学校(下記参照)の卒業生

## 03 日系人学校「ムンド・デ・アレグリア学校」に経営支援

学校法人「ムンド・デ・アレグリア学校」(浜松市南区卸本町)は、南米系日系人の子供たちの学校です。言葉の問題から日本の学校に行っても授業内容を理解できず、また経済的な問題から外国人学校には通うことができず、結果として家庭に閉じこもっていた子供たちに「学ぶ喜び」を知ってもらい、日本の社会に適應できる人材に育てて欲しいとの思いから設立された学校です。

同校は、2003年2月に個人資金により開設されましたが、学校運営を個人で行うのは限界があり、永続できるようスズキが支援することを決め、地元浜松の産業界に呼びかけました。支援の輪は約60社に及びました。2005年8月には、全国で初めての南米系外国人の学校法人となり、同校の役員(設立発起人、理事、監事、評議員)には地元産業界からも多数参画しています。

国際都市を標榜する浜松市から、立派な日系人2世3世が誕生してほしいと願っています。



## 04 大学でスズキ寄附講座・冠講座を開講

### 地元の学生にスズキのものづくりを紹介

地元の大学へ、スズキから講師を派遣し、人材の育成および共同研究等を行う「スズキ寄附講座」や学生に産業界の現状を紹介する「スズキ冠講座」を開講しています。

#### ●寄附講座

スズキは、静岡大学(工学部)において2003年度から、研究者育成及び研究成果の実用化を含めた研究成果の向上等を目的として、エンジン環境工学についての寄附講座を開講しています。



#### ・現在の主な研究テーマ：

エンジンの環境負荷を低減する研究(ガソリン代替燃料の利用や燃費向上によりCO<sub>2</sub>排出を低減する)

#### ・講師：

スズキから大学に従業員を教授、助教授(現在は准教授)として派遣

#### ・期間：

2003年4月から2009年3月までの6年間

なお、スズキは2005年11月16日に、静岡大学との間に、科学技術・学術研究の振興と研究成果の社会活用、人材育成の推進等を図ることを目的として協定書を締結しました(「スズキ株式会社と国立大学法人静岡大学との間の教育研究連携の推進に関する協定書」)。

#### ●冠講座

また、静岡産業大学・浜松大学・浜松学院大学の3校において、学生に産業界の現状や問題への取り組み方を紹介する冠講座を開講しています。

- |      |              |   |
|------|--------------|---|
| ・テーマ | ：2001年度      | 軽自動車産業論                                   |
|      | ：2002年度      | スズキのやり方                                   |
|      | ：2003年度      | スズキの挑戦                                    |
|      | ：2004年度      | グローバル企業を目指して                              |
|      | ：2005～2007年度 | グローバル企業を目指して<br>～厳しい企業競争を勝ち抜くためのスズキの取り組み～ |

・講師：テーマに応じ、各職場から大学に派遣

・講義回数：1回90分授業を毎年13～14回で1講座として  
います

### 「理数大好きモデル地域事業」への協力

文部科学省傘下の独立行政法人「科学技術振興機構」が主体となり、「理数に興味・関心を持つ子供たちの育成」を目的に、3年間の計画で、地域の小中学校を対象とした「理数大好きモデル地域事業」が行われました。

スズキ(本社)の地元である静岡県浜松市もこの「モデル地域」に選ばれ、市教育委員会が、「理数大好き浜松市モデル地域事業」を実施、スズキも2005年度より3年間にわたり、この事業に積極的に参加しました。

2005年度は、モデル地域の先生方を対象にスズキが従業員等に対して行っている研修教材を利用した研修会を行いました。

2006年度からは、二輪車のエンジン分解組立や実際の開発行程で行われるクレイ(工業用粘土)を用いたモデル製作の講習や実習を行い、2007年度は、小中学校の児童・生徒230名に参加いただきました。

